

平成29年度高山市総合計画審議会 議事要旨

日 時：平成29年11月28日（火） 13時30分～15時30分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：16名

堀委員、蓑谷委員、高木委員、松葉委員、村上委員、川上委員、京極委員、泉委員、西永委員、平塚委員、高垣委員、益田委員、高井委員、野中委員、田邊委員、桑山委員

欠席者：9名

下屋委員、鴻巣委員、内木委員、谷口委員、針山委員、野津委員、三宅委員、瀬上委員、門前委員

事務局：4名

田中部長、田谷参事、前田係長、田中

1 開会

2. 議事（進行：堀会長）

（1）高山市第八次総合計画の進捗について

資料に基づき事務局が説明

（質疑なし）

（2）総合計画の中間見直しに向けての意見交換

資料に基づき事務局が説明

堀会長

- ・委員の皆様から多くのご意見を頂戴したい。
- ・アンケートでは、急激な高齢者の増加への対応、少子化の問題、医療福祉の問題などが最重要テーマだと回答された方が多い。
- ・残念ながら人口も9万人を下回ってきており、人口減少をどうしていくかも踏まえてご意見をいただきたい。

西永委員

- ・アンケートで多かったのは高齢者対策である。高齢者福祉の満足度は低い。高齢者対策は単なる福祉の部門だけの話ではなく、総合的に考える必要がある。
- ・高山市はこのような住みやすいまちにするというビジョンを作るプロジェクトが必要である。福祉の部門だけでなく、全体的に、総合的に取り組んでいかなければならない。買い物の問題、交通の対策など総合的なプロジェクトを立ち上げて取り組むべきである。

田谷参事

- ・言われるとおり、高齢者福祉は高齢者の問題だけで考えてはならない。
- ・これからの時代にあっては、介護の負荷軽減のためにもICTやロボットなどの技術革新も取り入れていく必要がある。

益田委員

- ・視覚障がい者から点字ブロックについて苦情が出ており、市役所や駅舎の点字ブロックが黄色ではなくグレーであるため、大変見にくいとのことである。景観に配慮してのことと思うが、点字ブロックの本来の意味を考えて改善してほしい。
- ・今年8月に行われた高山市障がい者福祉計画に関するアンケートでは、家族が介護できなくなった場合、多くの障がい者は地域の中で自立して生活したいと回答している。地域で生活していくためには、相談できることや障がいへの理解など心のバリアフリーが必要との意見が多く、障がい者の一般就労支援については、賃金や労働時間ではなく、雇用主や同僚の障がいへの理解を求める意見が多数を占めている。障がいへの理解を高めることについて一層取り組んでほしい。
- ・最近では障がい者の雇用に積極的な企業が増え、特に精神障がい者の就職件数が年々増加してきており良い傾向である。
- ・まちづくりアンケートでは、障がい者福祉の満足度が低く残念である。支援が必要な発達障がい児は年々増加傾向にあり、障がい児のデイサービスやショートステイなどの充実をお願いしたい。
- ・高山には子供が安心して楽しめる公園や施設が少ないため、親子、老人も一日楽しめるような場所を整備してもらいたい。
- ・市に総合相談支援センターができてから相談窓口も増え、障がい者福祉サービスは充実してきたと感じている。

田中部長

- ・点字ブロックのお話は伺っている。改善すべきところは改善していく必要があると考えている。

高井委員

- ・基本的には点字ブロックは黄色とされているため、障がい者の声を踏まえ改善してもらいたい。

平塚委員

- ・発達障がいの子供たちへの対応は、市は努力していると思う。教育の現場では相談員の配置や支援学級もあり、あゆみ学園や丹生川、久々野、国府の公立保育園に療育施設があるなど、以前に比べて充実してきている。障がい児が増えていると言われるなか施設を減らすべきでないため、公立の療育施設は廃止しないでもらいたい。
- ・社会福祉協議会のスタッフが、業務が多すぎて倒れてしまわないか心配することがある。
- ・今年、保育士の給料が上がると報道されていたが、基本が低いためあまり効果がない。子供たちを育てるための保育士人件費などの予算もしっかりと確保してもらえたい。

高井委員

- ・男女共同参画の視点から、女性が働きやすい環境整備のため、学童保育の時間延長を検討してもらいたい。
- ・北小の学童保育は満室で、西小には余裕があるため、北小の一部を西小で受け入れるなど、円滑に連携できるシステムになるとよい。

西永委員

- ・北小の学童保育はスペースの不足から、今年の夏休みには下水道センターや消防署を利用している。1年生の約3分の2が入室を望まれるなど、希望者がとても増えてきている。
- ・社会福祉協議会では、学童保育や障がい児の療育に携わっているが、発達障がいの子供が増えるなど状況が変わってきている。

堀会長

- ・学童保育の問題は、学区の変更も合わせて検討しないと解決できない。学区の変更については、子供より親の反対が多いため簡単ではないと思うが、今後すすめていかざるをえないだろう。

田中部長

- ・学区の問題については、今年度から教育振興会議において検討をすすめている。

村上委員

- ・アンケートの中で、環境に関して何をしているのかわからないという意見が多くあった。小さいことでも見える化をすれば、伝わりやすいのではないか。例えば、ゴミの分別について、いかに皆に理解してもらうかが大切と思う。
- ・山王保育園・山王児童センターは浄化槽を使っているのではないか。浄化槽を清掃する際には大変な臭いがするため、確認してもらいたい。

川上委員

- ・10月に、県より江名子川の河川改修の説明があり、防災の面ではありがたいが、拡幅部分の桜の木の伐採を心配している。
- ・3年間の景観刷新事業で、電線の地中化や人道橋の整備がすすむことは大変ありがたいと感じている。

田邊委員

- ・平成25年にまちづくり協議会を立ち上げ、4年目に入ったが、アンケートにもあるとおり、まだ認知度が低い。市からの支援金は人件費が4割近くを占めてしまうため、人件費を別枠にしてもらいたいと意見している。
- ・役員のなり手がいないことが課題であり、後継者を育てるなど人づくりの仕組みが必要と感じている。

蓑谷委員

- ・今一番の問題は人手不足である。弊社では、60歳定年は廃止し、働けるうちは働いてもらっている。定年で仕事が途切れてしまうと、再び働き始めるのは大変なので、継続して働いてもらうほうがよい。
- ・例えば、高山は土日が休日ではなく、水木を休日にしてはどうか。観光産業を中心としたまちのため、できるだけ土日に働きやすい環境をつくる仕組みができないか。さまざまな問題があり簡単ではないが、全国で最初に高山でできないかと考えている。
- ・アンケートの中にもあったが、公園が郊外には比較的あるが、街中には少ない。観光客

からも望まれる声を聞くため、小さくても休憩できるスポットがあるとよい。

- ・私は市のさまざまな委員会に所属しているが、議論が先にすすまないことが多いため、行政は覚悟をもって先にすすめてもらいたい。

高垣委員

- ・長寿会が高齢化しており、若い人が長寿会に入らない。会員同士のつながりがなくなり、お年寄りの孤立化がすすむことを心配している。連合組織を抜ける長寿会も出てきている。
- ・健康をテーマとした講演会や健康体操などを取り入れて、元気な高齢者を増やしたい。

松葉委員

- ・観光で潤っている業者でも地元の物や地元の業者を使わないことがあるため、できるだけ地域でお金が循環するようにしてもらいたい。
- ・プレミアム商品券をもう一度、短期型でなく、1年程度の長期型で実施してもらいたい。
- ・若いお母さん方が商店街に来てもらえるように、10月にイベントを行っている。若い方も巻き込んで、一緒に商店街を盛り上げていきたい。

泉委員

- ・アンケートの重要課題の項目では、文化芸術が最下位になっており、今後市民の文化芸術への興味関心が向上していくような施策が必要であろう。自由意見欄には「映画館を作ってもらいたい」との意見が多いが、映画館がなくなったのは、市民の利用者数が少なかったことが大きな要素を思われる。
- ・3年前から文化協会では映画会を開催している。収支の赤字や映画上映への種々の制限等があるが、市民の期待に応えられるように継続していきたい。
- ・文化芸術にはそれに見合った代金を支払っても良いという意識を、多くの市民に持っていただけることが、文化芸術発展の一要素になると考えている。

野中委員

- ・建築業界では、今年度、大型物件の発注が多いため混乱している。一方で、来年度は仕事がないのではと心配もされている。切れ目なく仕事が受けられるようにしてもらえるとありがたい。
- ・林業については、樹齢100年以上の木材でも、非常に安い値段で取り引きされている。92%の森林面積を有するため、もっと森林資源の活用を考えていく必要がある。
- ・市の審議会などにおいて、旧高山市の委員が多いと感じる。市全体のことを考える会議であれば、まちづくり協議会を活用するなど、旧町村の委員を増やすべきと思う。

高木委員

- ・アンケートでは、労働に関する満足度が低い。市民感情としては、若者が期待するような大企業の誘致を望んでいると思うが、立地条件などから現実的には大企業が高山に来ることは難しい。一方で、商業系を中心とした地元企業には人手不足が起きており、このミスマッチを解消していくべきと思う。
- ・施策を市民に理解してもらおう努力が必要である。労働に関する施策が市民に浸透していない。

桑山委員

- ・アンケートでは、市政に関心がない若者が多く、郷土愛が育っていないと感じている。若い世代への高山の魅力の発信が必要である。
- ・若者が進学などで市外に出たとしても、最終的には高山に戻ってきたいと思ってもらえるように、若者が活躍できる場所、仕事、若者のチャレンジを支援する制度などが必要である。

京極副会長

- ・アンケート回答者のうち半数以上が高齢者であり、若者は少ない。若者の声をもっと聴けるようにしてほしい。
- ・女性や若者が働きやすい社会は生きやすい社会だと思う。仕事、家庭、地域活動で満足できているか、いわゆるワークライフバランスが図られているかといった設問がないため、広い視点での設問を設けることも検討してもらいたい。
- ・このような審議会にも、女性や若者の委員が大勢参画されるようお願いしたい。

堀会長

- ・今日は細かい部分まで議論する時間がなく申し訳ない。
- ・大きなテーマとしては、労働力、高齢者、少子化の3つと考える。
- ・総合計画に関しても、ポイントを絞ったわかりやすい広報が必要である。
- ・協働のまちづくりについても掘り下げていく必要がある。

西永委員

- ・全国の都市ランキングで、松本市のランクが上位だった。松本市は健康都市でPRしている。高山市の総合計画も何を中心にすすめるか、テーマを絞ってPRすることも大切と思う。

田谷参事

- ・いろいろなご意見をいただき、感謝申し上げます。
- ・アンケートで満足度の低い分野については、今後改善に向けて取り組んでいく。
- ・来年度、再来年度は審議会の開催頻度も増して、総合計画の中間見直しに取り組んでいきたいのでお願いしたい。

堀会長

- ・以上で本審議会を終了させていただく。